

## 『税の恩恵』

練馬区立関中学校 二学年 長谷川 理子

私の税の知識といえば、消費税くらいしかなく、まして使い道など具体的なイメージは頭に浮かばず、「税金の無駄遣い」という言葉が思いつくだけでした。

税の作文をきっかけに、夕食時家族に税について聞いてみました。

「わが家はこの一年、随分税金に助けられたよ。」と父が言いました。私が「え、うちはこの一年、税金を少ししか払ってないの。」と聞くと、「そうじゃないよ。きちんと納めてまわりまわって税の恩恵を受けたことになる。」と父が話してくれました。

私の祖父は昨年大きな病気が見つかり、家族はとても心配しました。祖母や両親は病気の心配だけでなく、色々大変そうでした。病気が見つかるまでの受診、検査。病気が診断された後の入院、投薬治療。退院して家へ戻ってきたときに使う医療用介護ベッドのレンタルまでの手続き、費用。その後のリハビリ。これら全てに税金が使われているそうです。もし医療制度、社会福祉制度を支える税金と

いう仕組みがなかったら個人で多額の治療費を負担しなければなりません。そうであれば、祖父は病気と闘うことに専念できなかったかもしれないし、そもそも病院へ行くこともためらったかもしれません。幸い祖父は一年間の治療の末、完治したと医師から告げられ、元気になりました。祖父の命を守ったのは祖父のがんばりが一番ですが、その根底に税金制度がしっかりとあり、国民を支えてくれているからなのだ、と気付きました。また、他の税金の使われ方を意識してみると、祖父のように特別な時だけでなく、私の日常生活でも税金の恩恵を受けていることに気付きました。私たちが毎日使っている教科書も実は税金で支給されています。高校生の兄の教科書代を見せてもらい、一人ひとりにとっても多くの税金が使われているという事実には驚きました。

日々何気なく暮らしている私は、無意識に税金の恩恵を受けながら、あたり前のように過ごしていて良いのでしょうか。私は、今ま

での自分の無知を恥ずかしく思いました。人は税金を納めるためにお金を支払ったこととははっきり覚えていても、その税金についても助けられていることには無意識です。

私は祖父の事をきっかけに、税金の必要性やありがたさを実感することができました。

この先私ができる事は、税金を使わせてもらっているという感謝の気持ちを持ち続ける事、そして過去の私のように税に無頓着な身近な人へメッセージを伝える事だと考えます。